

≪ 収 蔵 品 紹 介 ≫

科学文化センターでは、館内の展示や催し物を開いたりするばかりでなく、富山県内外の自然科学に関するいろいろな資料を集めており、現在4万1千点余りの資料が集まりました。これらの資料の中からいくつかを紹介いたしましょう。

1. イワサキクサゼミ

今年、寄贈を受けた標本の中に、イワサキクサゼミがあります。

イワサキクサゼミの名前は、初めて聞かれる人が多いと思いますが、日本では、沖縄県にしかいません。日本以外では、台湾にいることが知られています。

このゼミは、体の長さが14mmほどで、日本のゼミの中では一番小さい種類です。

ほかのゼミのように大きな木に付くことはなく、ススキやサトウキビに付いて汁を吸います。

近ごろでは、サトウキビ畑にたくさん発生するようになり、サトウキビの害虫として知られています。

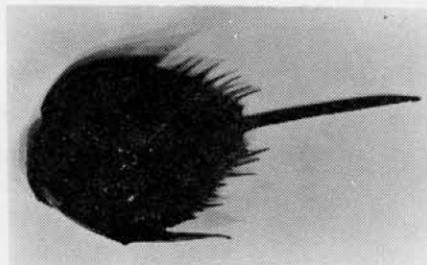
幼虫期間が2年もしくは1年と短かく、これも害虫になる1つの条件なのでしょう。

成虫は、春から夏の間に見られ、ススキやサトウキビの葉の上で「ジーー」と鳴いています。

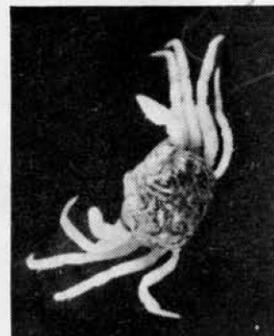
1頭くらいでは、たいしたことはありませんが、たくさん集まって鳴くとさわがしく、よけいに暑さを感じさせます。(根来)



イワサキクサゼミ



カブトガニ



コメツキガニ

2. 生きた化石 —カブトガニ—

この度、市内大泉におすまいの田島豊秋さんからカブトガニの標本の寄贈を受けました。

「カブトガニ」は「カニ」という名前がついていますがカニではなく、サンヨウチュウやクモに近い仲間です。

カブトガニのなかまは、今からおよそ1億年ほど前の中生代白亜紀には世界中の海で大いに栄えていたと考えられています。

現在では種類も少なく、分布も限られていて、いわゆる「生きた化石」の良い例と言えます。

日本では、瀬戸内海の岡山県笠岡地方が有名な産地です。この標本は現在、科学文化センター2階ロビーで展示中です。(布村)

3. 浜黒崎で見つかったコメツキガニ

科学文化センターでは、この春に、富山市浜黒崎の自然についての特別展を計画しています。そのための調査と資料集めのため、昨年10月16日、浜黒崎へ来ていました。

途中、学芸員の南部久男さんが「変なカニを見つけた」といって小さなカニを1頭持ってきました。それはまさしく「コメツキガニ」でした。

このカニは昭和30年の坂下栄作氏による「富山県動物目録」にもなく、今まで浜黒崎にいるカニは、スナガニだけだと思っていたので、干潟を好むコメツキガニがすんでいるのには驚きでした。(布村)